

2021年9月27日
株式会社日本政策金融公庫

農業景況は足元で改善の動きも見通しに懸念 ～ 担い手農業者の設備投資マインドは引き続き高水準 ～ < 農業景況調査（令和3年7月調査） >

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業は、融資先の担い手農業者を対象に「農業景況調査（令和3年7月調査）」を実施しました。

今回調査では、定例の景況調査のほか、新型コロナウイルス感染症拡大による影響などについて調査しました。

調査結果のポイントは以下のとおりです。

< 農業景況 >

- 令和3年上半期の農業景況 DI（▲16.7）は、前年実績から8.2ポイント上昇し、マイナス幅が縮小しました。
- 令和3年通年の景況 DI の見通し（▲33.7）は、令和3年上半期実績から17.0ポイント低下し、マイナス幅が拡大する見込みとなりました。
- 「設備投資予定あり」の比率（58.6%）は、前年と比較して1.3ポイント上昇し、本調査開始（平成23年）以降の11年間で最高値となりました。また、「設備投資予定あり」と回答した先のうち、46.3%が昨年に比べ設備投資額が「増加する」と回答しており、担い手農業者の設備投資に対する積極的な姿勢がうかがえます。
- 今後の経営方針は、「生産性向上に向けた設備増強」（59.0%）が最も多く、次いで「生産規模の拡大」（47.1%）、「新技術・新品種の導入」（46.7%）となりました。

< 新型コロナウイルス感染症拡大による影響、農業のデジタル化・スマート農業 >

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により売上高にマイナスの影響があるとする回答は55.3%となり、前回調査（令和3年1月）より9.3ポイント低下しました。
- 売上高にマイナスの影響があるとする回答割合は、肉用牛（72.6%）で最も高く、次いで施設野菜（69.9%）、施設花き（65.3%）となりました。
- コロナ禍を受けての経営課題は、「単価・相場の低迷」（48.4%）が最も多く、これから実施したい取組みは、「省力化・効率化によるコスト削減」（47.0%）が最も多くなりました。
- 農業のデジタル化、スマート農業の導入状況は、「導入している」が30.2%となりました。業種別では、畑作（49.9%）、稲作（北海道48.7%・都府県35.9%）の土地利用型農業において「導入している」割合が高くなりました。

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

< お問い合わせ先 >

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部（担当：高田、米山）TEL：03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

農業景況調査（令和3年7月）

～農業の景況、新型コロナウイルス感染症拡大による影響
及び「農業のデジタル化、スマート農業」について～

～目次～

I. 農業の景況について	P3 ～ 7
II. 今後の経営方針について	P8
III. 新型コロナウイルス感染症拡大による影響	
III-1 売上高への影響	P9 ～10
III-2 経営上の課題について	P11 ～13
III-3 これから実施したい取組みについて	P14 ～16
IV. 「農業のデジタル化、スマート農業」について	P17 ～18

○調査概要

- 調査時期: 令和3年7月
- 調査方法: 往復はがきによる郵送アンケート調査
- 調査対象: スーパーL資金又は農業改良資金のご融資先のうち19,992先
- 有効回答数: 6,336先(回収率31.6%)

(内訳)

稲作(北海道): 534、稲作(都府県): 1,712、畑作: 446、露地野菜: 543
施設野菜: 582、茶: 114、果樹: 313、施設花き: 180、きのこ: 81、
酪農(北海道): 255、酪農(都府県): 284、肉用牛: 488、養豚: 232、
採卵鶏: 112、ブロイラー: 95、その他: 365

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部(担当: 高田、米山) TEL: 03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

I. 農業の景況について(景況DI、収支DI)

- ・令和3年上半期の農業景況DI (▲24.9→▲16.7)は前年実績から8.2ポイント上昇した。
- ・令和3年通年の見通し(▲16.7→▲33.7)は上半期実績から17.0ポイント低下した。
- ・収支DIは茶、採卵鶏以外の業種でマイナス値となった。特に、養豚(47.0→▲32.9)は前年から大きく低下し、マイナス値となった。一方で採卵鶏(▲40.6→29.3)は前年から大きく上昇し、プラス値に転換した。

1. 景況DI

	23年 実績	24年 実績	25年 実績	26年 実績	27年 実績	28年 実績	29年 実績	30年 実績	R1年 実績	R2年 実績	今回調査	
											R3年 上半期実績	R3年 通年見通し
農業全体	▲ 7.9	13.2	▲ 1.4	▲ 33.7	16.8	20.0	21.2	▲ 11.1	6.0	▲ 24.9	▲ 16.7	▲ 33.7
稲作(北海道)	43.5	43.9	▲ 4.2	▲ 67.2	20.1	▲ 4.9	39.7	▲ 51.8	26.5	▲ 3.6	▲ 24.9	▲ 71.3
稲作(都府県)	13.1	36.2	▲ 10.2	▲ 71.0	▲ 3.8	23.6	10.3	▲ 10.7	11.4	▲ 33.4	▲ 19.4	▲ 48.5
畑作	▲ 19.1	1.6	▲ 27.6	▲ 5.3	35.2	▲ 17.6	34.8	▲ 22.7	31.6	▲ 32.3	▲ 15.3	▲ 48.5
露地野菜	▲ 14.0	6.7	15.1	▲ 15.7	14.3	14.7	7.5	▲ 3.4	▲ 9.3	▲ 32.8	▲ 25.4	▲ 35.9
施設野菜	▲ 15.7	19.9	15.6	▲ 8.4	20.3	26.3	15.0	▲ 1.4	▲ 22.4	▲ 28.1	▲ 30.0	▲ 22.4
茶	▲ 47.3	▲ 12.8	▲ 44.8	▲ 55.0	▲ 53.1	11.1	26.5	▲ 14.5	▲ 53.1	▲ 78.0	9.7	7.9
果樹	▲ 11.7	16.0	6.3	▲ 12.7	11.5	25.6	21.8	20.6	7.5	▲ 16.8	▲ 6.1	▲ 7.4
施設花き	▲ 38.8	▲ 8.0	▲ 2.8	▲ 34.4	▲ 5.9	11.8	▲ 10.6	▲ 13.7	▲ 20.2	▲ 40.2	▲ 10.0	▲ 14.6
きのこ	▲ 47.1	▲ 19.6	4.7	▲ 20.7	15.2	1.1	▲ 2.5	▲ 21.0	▲ 23.2	3.0	▲ 29.7	▲ 26.3
酪農(北海道)	▲ 26.9	▲ 2.2	▲ 9.4	▲ 4.1	55.9	57.6	44.8	25.0	30.3	▲ 19.3	▲ 21.6	▲ 31.6
酪農(都府県)	▲ 24.2	0.0	▲ 23.8	▲ 30.9	29.3	52.2	12.6	2.5	8.4	▲ 16.4	▲ 8.1	▲ 16.3
肉用牛	▲ 47.4	8.3	20.5	▲ 1.2	48.5	50.3	17.5	4.7	▲ 0.2	▲ 43.9	▲ 9.4	▲ 15.3
養豚	▲ 6.2	▲ 38.1	43.6	67.5	48.8	26.2	59.4	▲ 27.2	▲ 4.1	44.3	▲ 25.1	▲ 38.0
採卵鶏	8.4	▲ 40.6	43.9	28.6	71.0	40.8	32.7	▲ 61.2	▲ 38.9	▲ 43.8	35.7	17.1
プロイラー	▲ 6.3	▲ 1.3	▲ 22.4	10.4	51.9	27.4	55.3	15.9	14.7	6.4	▲ 4.2	▲ 27.7

※景況DIは農業経営が「良くなった・良くなる」とする構成比から「悪くなった・悪くなる」とする構成比を差し引いたもの

2. 収支DI

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	今回調査
											R3年 上半期実績
農業全体	▲ 7.2	12.5	▲ 7.0	▲ 39.7	14.2	16.7	14.7	▲ 20.1	▲ 1.5	▲ 27.6	▲ 23.1
稲作(北海道)	54.7	44.7	▲ 14.4	▲ 72.4	21.3	▲ 13.7	43.0	▲ 63.3	17.9	▲ 1.8	▲ 38.9
稲作(都府県)	14.0	37.8	▲ 22.0	▲ 76.7	▲ 6.5	23.8	2.2	▲ 18.8	4.5	▲ 38.5	▲ 28.1
畑作	▲ 21.4	▲ 1.4	▲ 35.8	▲ 13.8	33.9	▲ 24.7	28.1	▲ 27.5	29.0	▲ 37.4	▲ 28.3
露地野菜	▲ 18.1	0.7	8.9	▲ 23.6	5.7	13.1	▲ 0.9	▲ 14.8	▲ 18.4	▲ 36.9	▲ 31.9
施設野菜	▲ 18.2	16.7	9.3	▲ 19.5	15.3	20.3	5.6	▲ 11.8	▲ 27.2	▲ 29.2	▲ 34.4
茶	▲ 44.9	▲ 11.9	▲ 43.8	▲ 59.0	▲ 52.4	8.1	25.8	▲ 16.1	▲ 54.0	▲ 76.3	10.2
果樹	▲ 12.2	14.2	0.9	▲ 20.3	6.3	19.3	12.0	7.4	▲ 4.9	▲ 25.3	▲ 4.1
施設花き	▲ 38.8	▲ 9.7	▲ 8.5	▲ 39.2	▲ 8.1	9.1	▲ 24.6	▲ 22.0	▲ 22.3	▲ 38.2	▲ 15.5
きのこ	▲ 46.5	▲ 13.7	7.0	▲ 17.1	11.4	▲ 1.0	▲ 3.8	▲ 24.7	▲ 30.5	4.4	▲ 36.5
酪農(北海道)	▲ 25.9	▲ 3.4	▲ 10.5	▲ 12.6	55.5	57.0	36.8	7.4	17.6	▲ 24.3	▲ 33.7
酪農(都府県)	▲ 27.7	▲ 2.6	▲ 25.4	▲ 34.3	25.4	48.4	1.7	▲ 3.3	▲ 3.6	▲ 14.5	▲ 14.5
肉用牛	▲ 49.9	9.9	20.2	▲ 7.6	50.8	48.6	7.0	▲ 4.1	▲ 7.3	▲ 48.4	▲ 16.0
養豚	▲ 4.2	▲ 38.1	44.9	69.9	50.2	19.1	57.9	▲ 34.9	▲ 7.8	47.0	▲ 32.9
採卵鶏	14.3	▲ 45.6	56.7	31.3	63.0	44.8	31.9	▲ 62.8	▲ 46.0	▲ 40.6	29.3
プロイラー	▲ 10.9	1.3	▲ 22.4	6.0	42.3	29.1	55.3	4.3	5.4	8.9	▲ 16.3

※収支DIは収支実績が「良くなった」とする構成比から「悪くなった」とする構成比を差し引いたもの

I. 農業の景況について(資金繰りDI、販売単価DI)

- ・資金繰りDI (▲16.3→▲12.9)は前年から3.4ポイント上昇した。特に茶(▲48.3→12.3)と採卵鶏(▲32.3→25.0)は大きく上昇し、プラス値へ転換した。一方で養豚(37.7→▲23.3)は大きく低下し、マイナス値となった。
- ・販売単価DI(▲42.2→▲30.1)は前年から12.1ポイント上昇したが、依然として大幅なマイナス値となっている。

3. 資金繰りDI

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年 上半期実績
	農業全体	▲ 3.8	9.8	▲ 0.9	▲ 29.2	7.6	15.5	15.5	▲ 4.7	0.4	▲ 16.3
稲作(北海道)	34.5	31.8	▲ 0.7	▲ 52.4	8.2	▲ 2.5	23.8	▲ 30.4	7.9	▲ 1.5	▲ 17.3
稲作(都府県)	10.0	29.2	▲ 6.7	▲ 59.2	▲ 10.7	13.5	7.3	▲ 5.9	4.9	▲ 22.0	▲ 16.0
畑作	▲ 9.7	2.4	▲ 17.0	▲ 10.4	19.9	▲ 3.3	23.3	▲ 5.3	14.7	▲ 15.4	▲ 8.3
露地野菜	▲ 13.2	2.7	7.2	▲ 14.2	2.3	14.2	2.7	▲ 6.4	▲ 13.5	▲ 27.6	▲ 22.2
施設野菜	▲ 6.3	12.7	8.1	▲ 10.6	16.0	19.8	11.5	0.8	▲ 19.3	▲ 25.2	▲ 23.7
茶	▲ 33.0	▲ 16.4	▲ 32.5	▲ 43.7	▲ 41.3	4.3	20.2	▲ 8.0	▲ 40.5	▲ 48.3	12.3
果樹	▲ 8.7	7.2	1.4	▲ 14.8	1.4	14.7	8.6	8.9	2.0	▲ 11.8	▲ 10.6
施設花き	▲ 27.4	▲ 14.7	▲ 9.8	▲ 34.4	▲ 6.8	7.3	▲ 5.9	▲ 6.9	▲ 15.2	▲ 32.9	▲ 3.9
きのこ	▲ 39.6	▲ 23.5	0.0	▲ 29.3	10.1	1.0	7.5	▲ 24.7	▲ 29.0	▲ 6.0	▲ 17.3
酪農(北海道)	▲ 15.1	▲ 3.1	▲ 5.0	▲ 6.3	39.2	45.7	36.3	21.1	24.9	▲ 12.0	▲ 15.8
酪農(都府県)	▲ 17.8	1.8	▲ 14.4	▲ 26.2	26.5	42.1	16.4	5.4	1.6	▲ 6.7	▲ 9.9
肉用牛	▲ 26.7	8.1	9.7	▲ 6.1	27.8	34.6	16.9	8.7	0.7	▲ 25.6	▲ 2.9
養豚	▲ 4.2	▲ 26.8	37.1	59.3	45.0	32.4	55.6	▲ 7.1	2.3	37.7	▲ 23.3
採卵鶏	15.6	▲ 24.4	39.0	26.8	56.0	44.8	31.1	▲ 30.2	▲ 28.6	▲ 32.3	25.0
プロイラー	▲ 4.7	18.4	▲ 16.4	3.0	38.5	29.1	50.0	27.6	17.4	5.0	3.2

※資金繰りDIは資金繰りが「楽になった」とする構成比から「厳しくなった(苦しくなった)」とする構成比を差し引いたもの

4. 販売単価DI

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年 上半期実績
	農業全体	▲ 12.7	4.5	▲ 11.1	▲ 40.0	13.1	26.1	24.3	2.1	▲ 6.9	▲ 42.2
稲作(北海道)	32.9	40.4	▲ 51.9	▲ 88.6	10.1	19.9	54.4	▲ 5.9	▲ 2.4	▲ 48.3	▲ 56.7
稲作(都府県)	25.2	43.3	▲ 58.7	▲ 88.2	7.0	33.4	36.0	16.9	13.4	▲ 64.9	▲ 46.6
畑作	▲ 34.4	▲ 29.7	▲ 36.2	▲ 30.5	▲ 15.4	▲ 3.5	▲ 2.1	▲ 1.9	▲ 8.6	▲ 57.5	▲ 40.3
露地野菜	▲ 32.6	▲ 19.6	17.0	▲ 33.5	▲ 10.0	16.5	▲ 7.8	0.8	▲ 43.1	▲ 42.2	▲ 45.2
施設野菜	▲ 27.3	0.9	▲ 0.4	▲ 32.8	▲ 0.6	26.0	8.7	▲ 11.6	▲ 31.2	▲ 34.4	▲ 48.4
茶	▲ 43.0	▲ 27.9	▲ 62.1	▲ 64.0	▲ 59.4	▲ 1.3	18.1	▲ 41.1	▲ 63.5	▲ 78.0	15.6
果樹	▲ 15.1	1.9	▲ 1.4	▲ 25.4	10.9	34.9	28.0	15.0	15.7	3.1	▲ 3.4
施設花き	▲ 52.0	▲ 27.0	▲ 21.1	▲ 47.0	▲ 15.4	7.3	▲ 28.6	▲ 23.3	▲ 25.3	▲ 48.0	▲ 17.6
きのこ	▲ 53.9	▲ 42.2	1.2	▲ 22.0	▲ 6.4	▲ 18.2	▲ 11.3	▲ 39.6	▲ 46.4	▲ 4.5	▲ 52.0
酪農(北海道)	▲ 22.0	37.4	36.0	59.3	85.9	79.3	67.8	47.6	33.0	▲ 37.8	▲ 31.6
酪農(都府県)	▲ 24.0	▲ 2.1	51.7	23.0	61.7	50.7	14.4	17.6	34.2	▲ 23.7	▲ 6.3
肉用牛	▲ 65.4	▲ 4.9	59.0	46.4	85.8	76.4	17.1	20.4	▲ 21.5	▲ 62.6	▲ 23.0
養豚	▲ 22.9	▲ 71.5	70.1	84.1	26.9	▲ 15.1	63.6	▲ 55.0	▲ 24.5	52.8	▲ 14.5
採卵鶏	▲ 11.7	▲ 48.8	82.3	53.6	74.0	▲ 12.0	1.7	▲ 66.7	▲ 53.2	▲ 57.5	67.8
プロイラー	3.1	▲ 47.4	▲ 22.4	10.4	28.8	▲ 9.7	37.5	▲ 11.6	▲ 28.3	5.1	▲ 13.9

※販売単価DIは生産物の販売価格が「上昇した」とする構成比から「下落した」とする構成比を差し引いたもの

I. 農業の景況について(生産コストDI、雇用状況DI)

- ・生産コストDI(▲55.5)は果樹を除く全業種で低下、中でも畜産(特に養豚)はマイナス幅の拡大が顕著になった。
- ・雇用状況DI(▲32.9)はマイナス値が続き、労働力不足の状況を示している。

5. 生産コストDI

今回調査

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年 上半期実績
農業全体	▲ 48.6	▲ 50.7	▲ 62.9	▲ 66.3	▲ 44.7	▲ 19.1	▲ 25.2	▲ 37.1	▲ 38.8	▲ 36.2	▲ 55.5
稲作(北海道)	▲ 53.5	▲ 49.7	▲ 63.0	▲ 69.0	▲ 44.1	▲ 24.2	▲ 18.8	▲ 36.9	▲ 40.4	▲ 33.7	▲ 63.3
稲作(都府県)	▲ 40.7	▲ 38.3	▲ 43.6	▲ 53.2	▲ 36.5	▲ 11.5	▲ 11.2	▲ 18.2	▲ 19.3	▲ 30.8	▲ 39.2
畑作	▲ 62.3	▲ 55.8	▲ 70.4	▲ 78.2	▲ 63.7	▲ 32.6	▲ 28.4	▲ 38.5	▲ 45.6	▲ 41.5	▲ 56.7
露地野菜	▲ 55.3	▲ 46.9	▲ 65.1	▲ 67.5	▲ 56.8	▲ 28.9	▲ 40.0	▲ 46.3	▲ 53.1	▲ 44.7	▲ 55.3
施設野菜	▲ 52.4	▲ 52.4	▲ 64.5	▲ 63.4	▲ 41.0	▲ 26.5	▲ 39.9	▲ 49.0	▲ 57.6	▲ 46.0	▲ 63.7
茶	▲ 53.1	▲ 48.4	▲ 68.5	▲ 72.5	▲ 30.1	▲ 11.1	▲ 32.2	▲ 46.7	▲ 51.6	▲ 25.4	▲ 58.8
果樹	▲ 38.1	▲ 44.8	▲ 55.8	▲ 67.0	▲ 48.4	▲ 31.3	▲ 37.3	▲ 39.0	▲ 48.1	▲ 40.2	▲ 37.6
施設花き	▲ 48.9	▲ 53.3	▲ 70.7	▲ 72.8	▲ 33.5	▲ 21.9	▲ 48.6	▲ 53.5	▲ 55.7	▲ 40.2	▲ 66.7
きのこ	▲ 43.1	▲ 40.6	▲ 64.0	▲ 74.4	▲ 43.0	▲ 22.4	▲ 28.8	▲ 59.2	▲ 56.6	▲ 44.8	▲ 53.8
酪農(北海道)	▲ 59.0	▲ 68.8	▲ 81.9	▲ 80.4	▲ 46.4	▲ 4.9	▲ 35.2	▲ 48.2	▲ 37.1	▲ 45.4	▲ 71.3
酪農(都府県)	▲ 53.9	▲ 67.5	▲ 83.5	▲ 83.6	▲ 46.6	▲ 0.7	▲ 32.9	▲ 40.4	▲ 46.6	▲ 38.5	▲ 75.0
肉用牛	▲ 38.0	▲ 65.7	▲ 83.1	▲ 81.9	▲ 63.1	▲ 37.3	▲ 41.3	▲ 46.7	▲ 37.4	▲ 30.9	▲ 70.6
養豚	▲ 48.7	▲ 65.9	▲ 69.6	▲ 59.8	▲ 17.7	16.9	12.1	▲ 37.0	▲ 24.7	▲ 19.1	▲ 81.1
採卵鶏	▲ 31.2	▲ 61.9	▲ 79.9	▲ 78.6	▲ 32.0	11.2	▲ 12.0	▲ 49.6	▲ 46.9	▲ 41.7	▲ 72.4
ブロイラー	▲ 42.2	▲ 42.1	▲ 76.1	▲ 59.7	▲ 44.2	▲ 4.8	▲ 16.1	▲ 23.2	▲ 28.0	▲ 20.3	▲ 46.3

※生産コストDIは生産の費用(コスト)が「下がった」とする構成比から「上がった(コスト増)」とする構成比を差し引いたもの

6. 雇用状況DI

今回調査

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年 上半期実績
農業全体	-	-	-	-	▲ 26.3	▲ 33.6	▲ 36.8	▲ 34.7	▲ 34.9	▲ 32.0	▲ 32.9
稲作(北海道)	-	-	-	-	▲ 26.7	▲ 35.6	▲ 39.0	▲ 41.2	▲ 36.9	▲ 38.4	▲ 31.6
稲作(都府県)	-	-	-	-	▲ 18.8	▲ 27.3	▲ 27.8	▲ 27.6	▲ 29.5	▲ 28.4	▲ 30.3
畑作	-	-	-	-	▲ 33.6	▲ 40.8	▲ 45.0	▲ 40.9	▲ 42.7	▲ 37.5	▲ 40.6
露地野菜	-	-	-	-	▲ 34.9	▲ 41.5	▲ 43.4	▲ 36.7	▲ 38.2	▲ 36.2	▲ 36.6
施設野菜	-	-	-	-	▲ 24.1	▲ 30.8	▲ 33.0	▲ 30.9	▲ 30.1	▲ 24.9	▲ 30.2
茶	-	-	-	-	▲ 26.6	▲ 30.8	▲ 37.7	▲ 40.7	▲ 39.5	▲ 29.7	▲ 24.7
果樹	-	-	-	-	▲ 25.6	▲ 32.0	▲ 36.8	▲ 36.9	▲ 36.0	▲ 31.6	▲ 40.0
施設花き	-	-	-	-	▲ 26.8	▲ 31.6	▲ 34.4	▲ 31.8	▲ 29.9	▲ 26.7	▲ 34.1
きのこ	-	-	-	-	▲ 26.6	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 42.0	▲ 42.0	▲ 34.9	▲ 43.8
酪農(北海道)	-	-	-	-	▲ 40.4	▲ 45.0	▲ 52.5	▲ 44.1	▲ 38.7	▲ 31.9	▲ 42.1
酪農(都府県)	-	-	-	-	▲ 25.8	▲ 28.0	▲ 27.6	▲ 26.3	▲ 35.3	▲ 27.5	▲ 29.8
肉用牛	-	-	-	-	▲ 24.7	▲ 28.7	▲ 34.3	▲ 32.4	▲ 32.9	▲ 33.2	▲ 30.2
養豚	-	-	-	-	▲ 35.6	▲ 44.5	▲ 44.3	▲ 32.7	▲ 29.8	▲ 26.3	▲ 24.6
採卵鶏	-	-	-	-	▲ 31.0	▲ 43.2	▲ 47.4	▲ 41.1	▲ 38.9	▲ 33.3	▲ 37.5
ブロイラー	-	-	-	-	▲ 15.4	▲ 21.4	▲ 36.4	▲ 25.0	▲ 37.4	▲ 21.8	▲ 16.2

※雇用状況DIは雇用状況の実績が「過剰である」とする構成比から「不足である」とする構成比を差し引いたもの

I. 農業の景況について(設備投資ありの比率、設備投資額)

- ・「設備投資予定あり」の比率(57.3%→58.6%)は、前年から1.3ポイント上昇し、本調査開始(平成23年)以降の11年間で最高値となった。
- ・「設備投資予定あり」と回答した先のうち、46.3%が昨年に比べ設備投資額が「増加する」と回答しており、担い手農業者の設備投資に対する積極的な姿勢がうかがえる。

7. 設備投資予定ありの比率

今回調査

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年
農業全体	44.9	49.8	41.2	47.6	47.5	52.9	56.1	57.1	54.9	57.3	58.6
稲作(北海道)	49.7	53.7	49.1	50.6	43.3	48.5	51.2	58.9	56.3	63.8	63.8
稲作(都府県)	52.1	60.7	50.6	52.3	46.8	53.9	58.9	62.1	59.7	62.1	61.7
畑作	48.1	49.0	39.7	46.1	49.4	58.3	60.5	59.9	60.4	67.9	60.6
露地野菜	42.7	49.6	39.3	51.7	50.0	46.1	56.7	56.5	50.7	54.0	55.4
施設野菜	47.9	52.9	42.0	43.1	51.1	51.7	52.2	50.7	44.9	51.0	51.4
茶	29.7	38.8	27.5	31.5	28.2	41.7	47.8	48.4	35.5	36.1	45.1
果樹	38.7	44.1	30.7	45.1	41.5	42.3	44.1	48.6	46.6	40.9	50.8
施設花き	30.6	38.9	30.1	46.7	39.1	37.1	48.3	39.2	38.2	50.0	55.6
きのこ	33.7	37.4	33.0	44.7	57.9	56.3	54.2	46.4	52.9	50.7	69.1
酪農(北海道)	36.0	36.0	30.9	33.2	42.2	51.9	53.1	54.5	57.0	53.0	55.0
酪農(都府県)	46.0	47.7	35.8	46.1	48.5	56.6	59.6	59.7	63.5	58.7	58.5
肉用牛	34.1	42.1	39.7	42.5	50.4	61.7	57.3	52.3	55.6	52.9	57.5
養豚	52.2	45.9	38.6	60.2	68.7	67.5	68.3	70.2	58.5	64.1	64.5
採卵鶏	53.0	44.5	38.1	51.5	47.2	64.6	66.0	59.0	48.1	59.3	63.4
ブロイラー	58.0	47.6	32.9	43.4	45.5	56.1	57.9	69.2	57.5	65.8	55.8

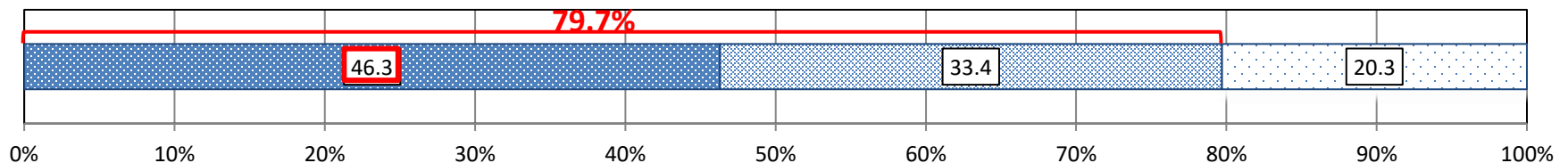
※設備投資予定ありの比率は調査実施当年中の設備投資を「実施済み」と「予定している」の合計。

8. 昨年と比べた今年の設備投資額の見込み

■ 増加する

■ 同程度

□ 減少する



I. 農業の景況について(天気図)

業種	令和2年 実績	令和3年 上半期実績	令和3年 通年見通し	業種	令和2年 実績	令和3年 上半期実績	令和3年 通年見通し
農業全体	▲ 24.9	▲ 16.7	▲ 33.7	施設花き	▲ 40.2	▲ 10.0	▲ 14.6
稲作(北海道)	▲ 3.6	▲ 24.9	▲ 71.3	きのこ	3.0	▲ 29.7	▲ 26.3
稲作(都府県)	▲ 33.4	▲ 19.4	▲ 48.5	酪農(北海道)	▲ 19.3	▲ 21.6	▲ 31.6
畑作	▲ 32.3	▲ 15.3	▲ 48.5	酪農(都府県)	▲ 16.4	▲ 8.1	▲ 16.3
露地野菜	▲ 32.8	▲ 25.4	▲ 35.9	肉用牛	▲ 43.9	▲ 9.4	▲ 15.3
施設野菜	▲ 28.1	▲ 30.0	▲ 22.4	養豚	44.3	▲ 25.1	▲ 38.0
茶	▲ 78.0	9.7	7.9	採卵鶏	▲ 43.8	35.7	17.1
果樹	▲ 16.8	▲ 6.1	▲ 7.4	ブロイラー	6.4	▲ 4.2	▲ 27.7

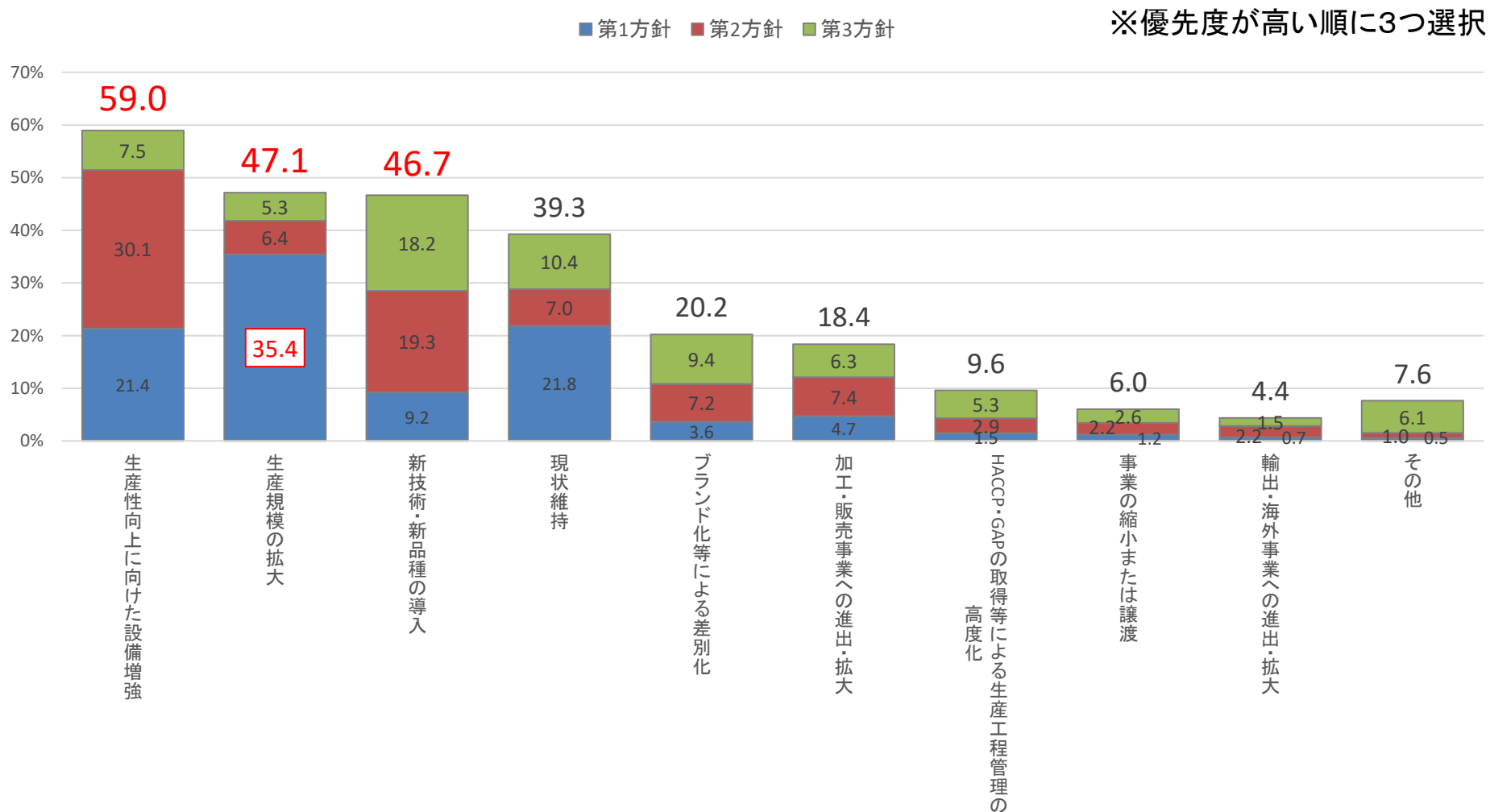
調査様式
 農業経営の業況は
 1:良くなった 2:変わらない 3:悪くなった
 今年(令和3年)の経営見通しは
 1:良くなる 2:変わらない 3:悪くなる

(注1) DI(Diffusion Index = 動向指数)について
 DIは、前年と比較して、「良くなった」の
 構成比から「悪くなった」の構成比を
 差し引いたもの。
 (注2) DI値に2.5以上の差異がある場合は
 上向き又は下向き矢印。2.4以内の場合は
 平行矢印。

(凡例)
 ≤ -50 < ≤ -20 < ≤ -5
 -5 < < 5 ≤ < 20 ≤

Ⅱ. 今後の経営方針について(令和3年7月)

- ・今後の経営方針(第1方針から第3方針までの積み上げ)は、「生産性向上に向けた設備増強」(59.0%)が最も高く、次いで「生産規模の拡大」(47.1%)、「新技術・新品種の導入」(46.7%)となった。
- ・最優先する経営方針(第1方針)としては、「生産規模の拡大」(35.4%)の割合が最も高くなった。



Ⅲ.新型コロナウイルス感染症拡大による影響

Ⅲ-1. 売上高への影響(業種別、令和3年7月調査)

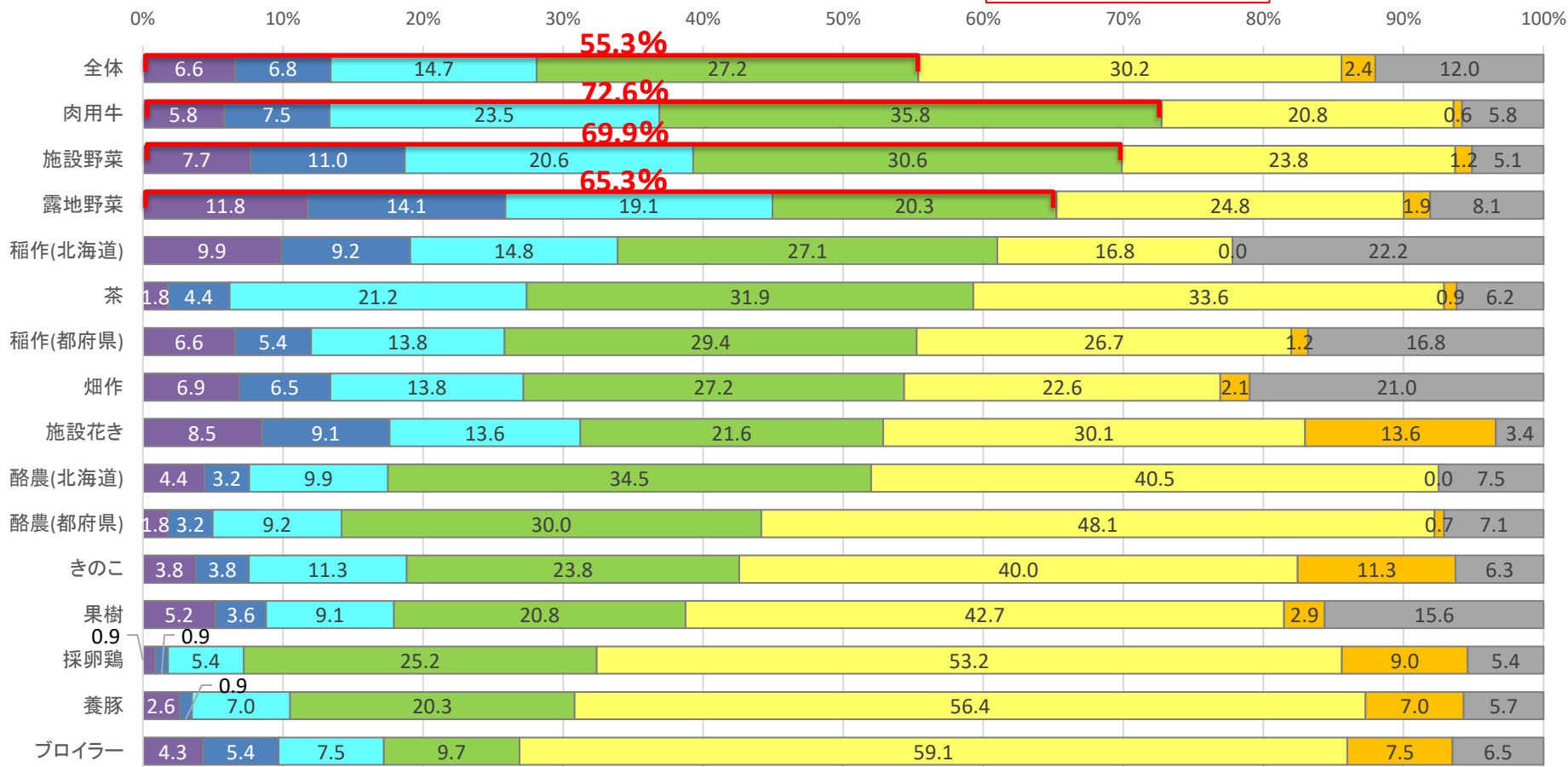
- ・売上高にマイナスの影響があると回答は、全体で55.3%となった。
- ・業種別に見ると、肉用牛(72.6%)で最も高く、次いで施設野菜(69.9%)、露地野菜(65.3%)の順となった。

※各選択肢について

- 甚大なマイナス影響⇒売上高が例年の5割未満
- 非常に大きなマイナス影響⇒売上高が例年の5～7割未満
- 大きなマイナス影響⇒売上高が例年の7～9割未満
- マイナス影響⇒売上高が例年の9～10割未満

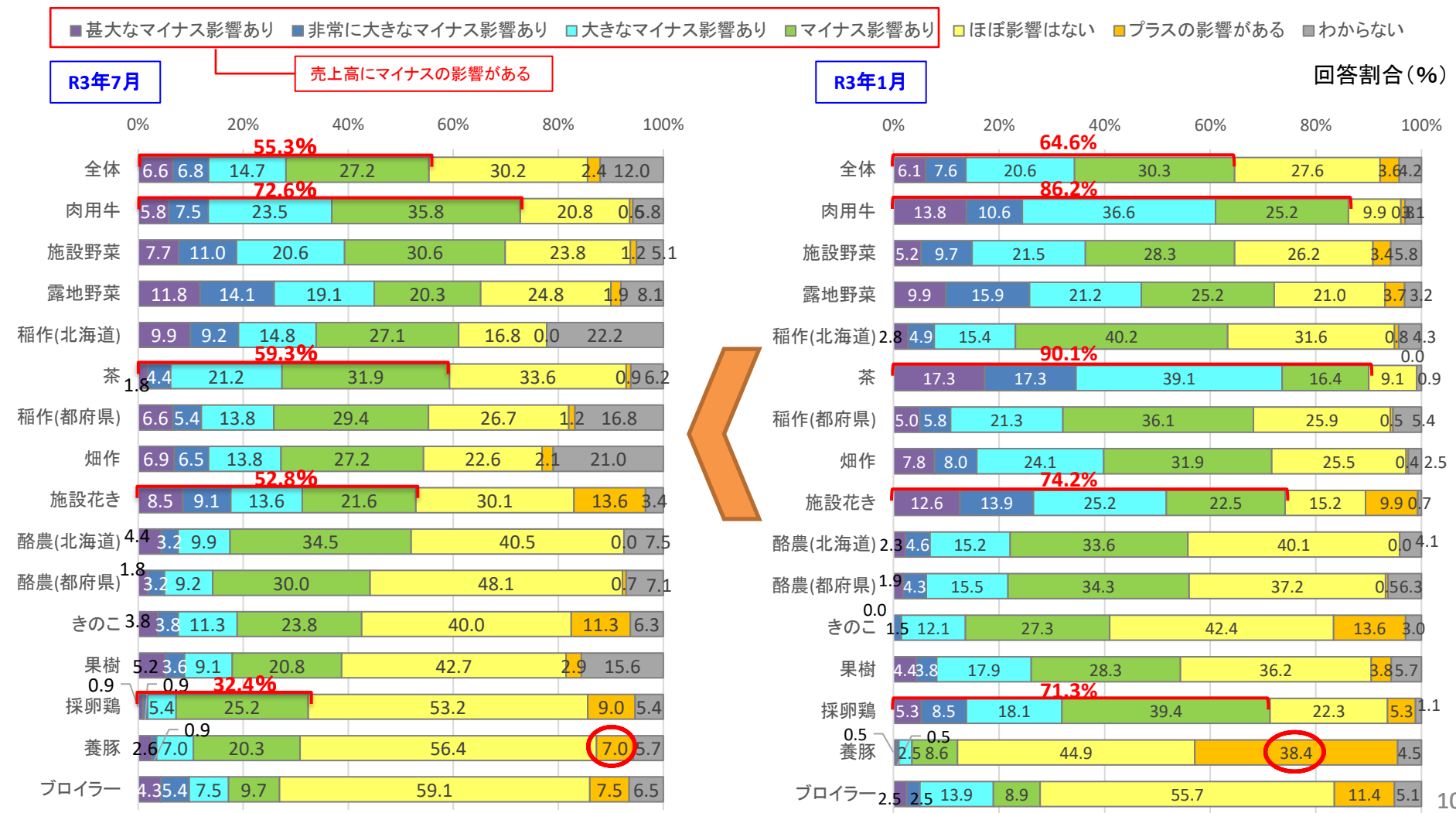
- 甚大なマイナス影響あり
 - 非常に大きなマイナス影響あり
 - 大きなマイナス影響あり
 - マイナス影響あり
 - ほぼ影響はない
 - プラスの影響がある
 - わからない
- 売上高にマイナスの影響がある

回答割合(%)



Ⅲ-1. 売上高への影響(業種別、令和3年7月調査と令和3年1月調査の比較)

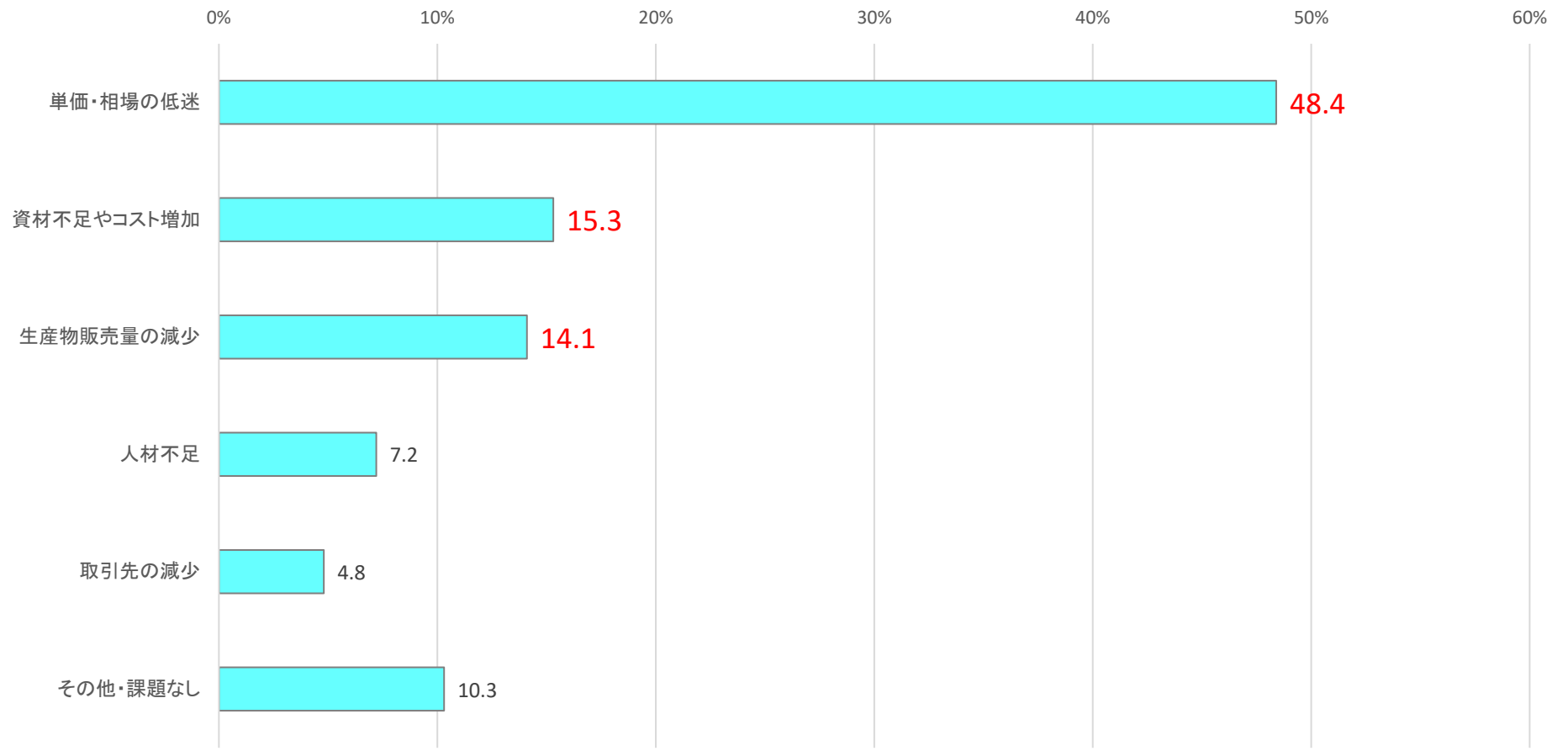
- ・売上高にマイナスの影響があるとする割合(55.3%)は、前回調査(令和3年1月)と比べて、9.3ポイント低下。
- ・特に、肉用牛(86.2%→72.6%)、茶(90.1%→59.3%)、採卵鶏(71.3%→32.4%)、施設花き(74.2%→52.8%)において、売上高にマイナスの影響があるとする割合が低下し、改善の動きが見られる。
- ・養豚は「プラスの影響がある」(38.4%→7.0%)が大幅に低下した。



Ⅲ.新型コロナウイルス感染症拡大による影響

Ⅲ-2. 経営上の課題について

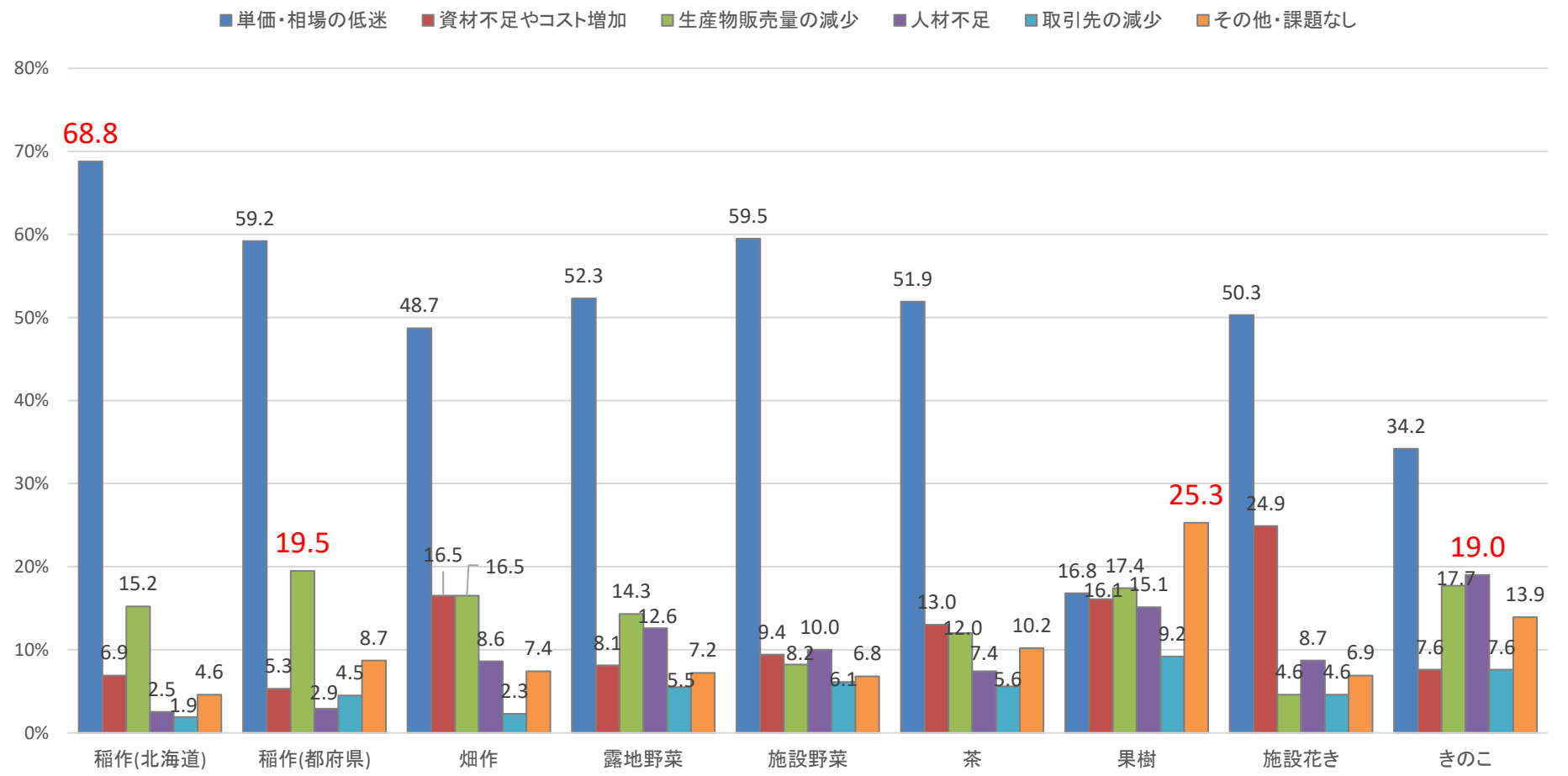
・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経営上の最も大きな課題は、「単価・相場の低迷」(48.4%)が最も多く、次いで「資材不足やコスト増加」(15.3%)、「生産物販売量の減少」(14.1%)となった。



Ⅲ-2. 経営上の課題について(業種別・耕種)

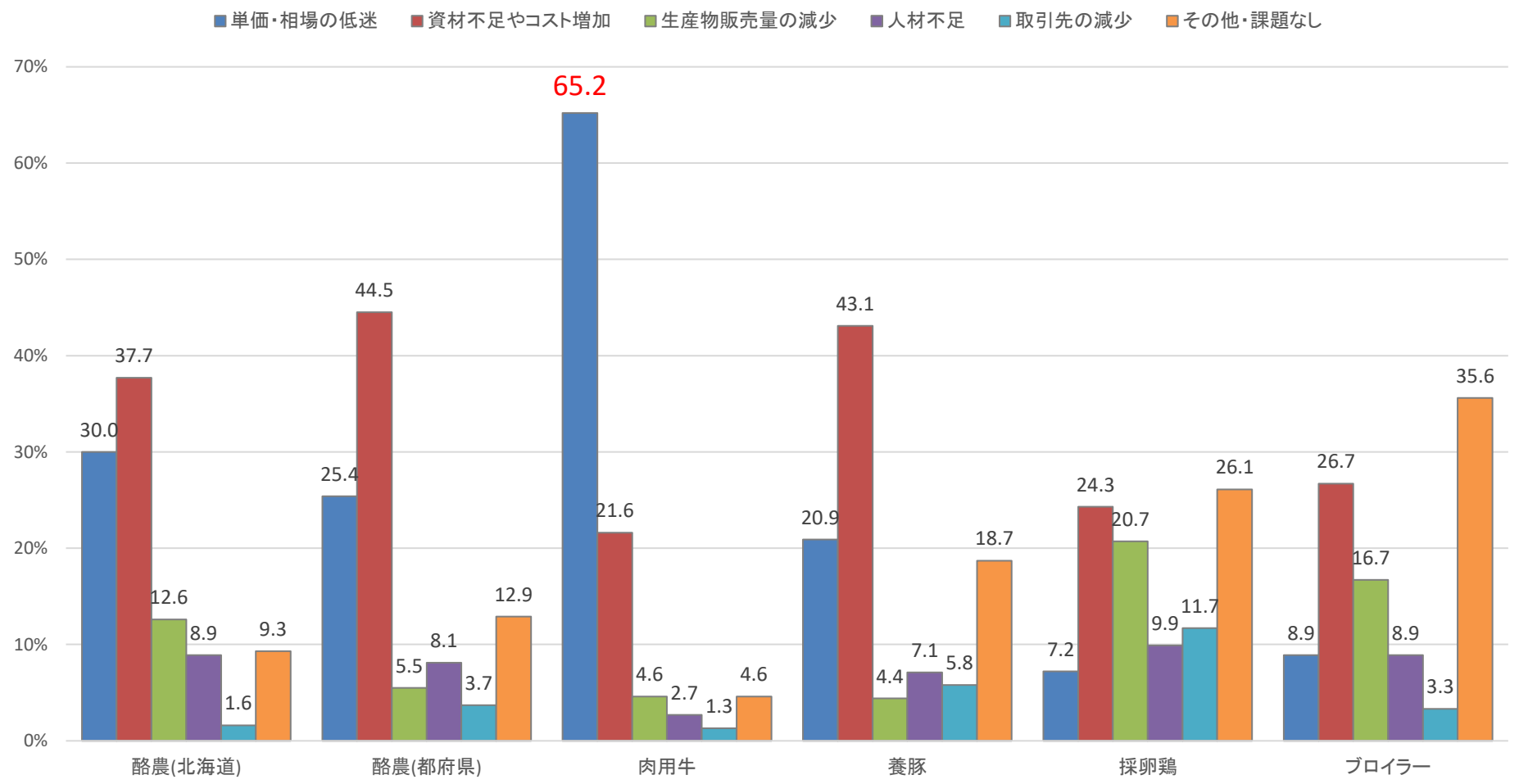
・業種別(耕種)では、多くの業種で「単価・相場の低迷」の回答割合が最も高くなった。特に稲作(北海道、68.8%)、では他業種に比べ高くなった。その他、施設花きでは「資材不足やコスト増加」(24.9%)、きのこでは「人材不足」(19.0%)、稲作(都府県)では「生産物販売量の減少」(19.5%)が他業種に比べ高くなった。

・他方、果樹では「その他・課題なし」(25.3%)の割合が最も高くなった。



Ⅲ-2. 経営上の課題について(業種別・畜産)

・業種別(畜産)では、酪農、養豚で「資材不足やコスト増加」、肉用牛で「単価・相場の低迷」の割合が最も高くなった。他方、採卵鶏、ブロイラーでは「その他・課題なし」が最も高い割合となった。

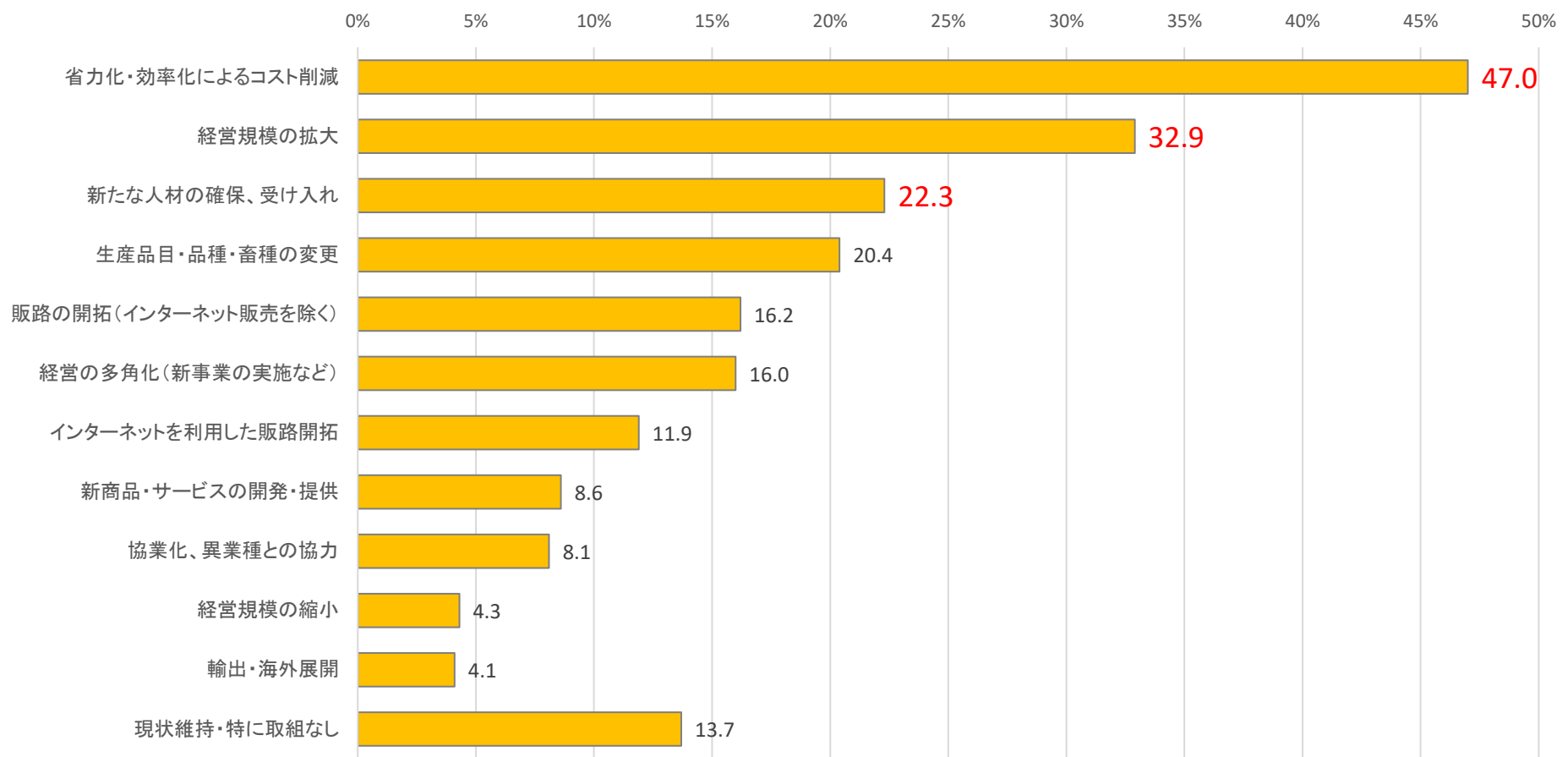


Ⅲ.新型コロナウイルス感染症拡大による影響

Ⅲ-3. 「これから実施したい」具体的な取組みについて

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、これから実施したい取組みは、「省力化・効率化によるコスト削減」(47.0%)が最も高くなった。次いで「経営規模の拡大」(32.9%)、「新たな人材の確保、受け入れ」(22.3%)の順となった。

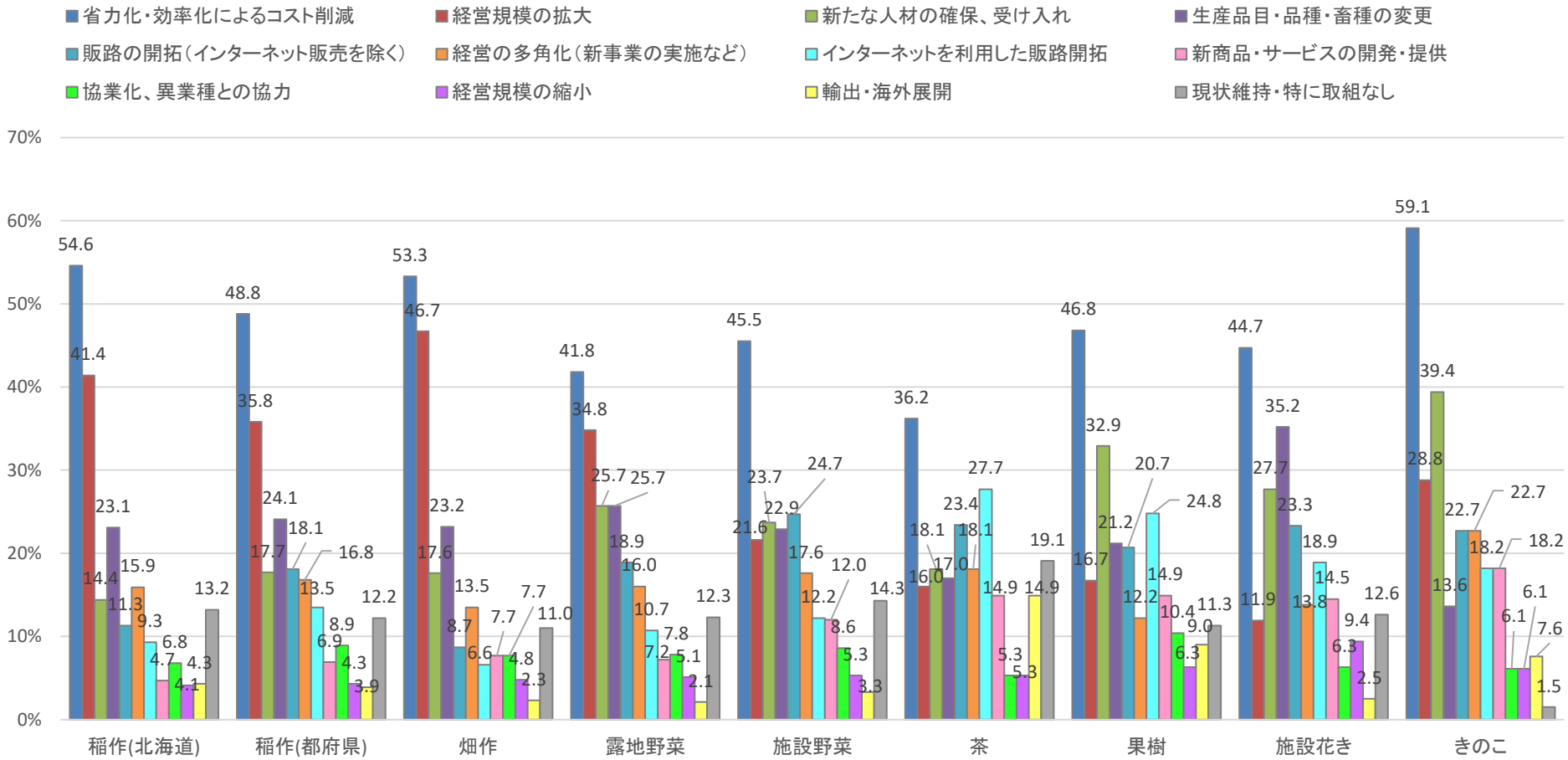
※「複数選択可」で集計したもの



Ⅲ-3. 「これから実施したい」具体的な取組みについて(業種別・耕種)

・業種別(耕種)では、全ての業種で「省力化・効率化によるコスト削減」が最多となった。
 ・その他、稲作、畑作、露地野菜では「経営規模の拡大」、果樹及びきのこでは「新たな人材の確保、受け入れ」、茶では「インターネットを利用した販路開拓」、施設野菜では「販路の開拓」、施設花きでは「生產品目・品種・畜種の変更」が他業種に比べ高くなった。

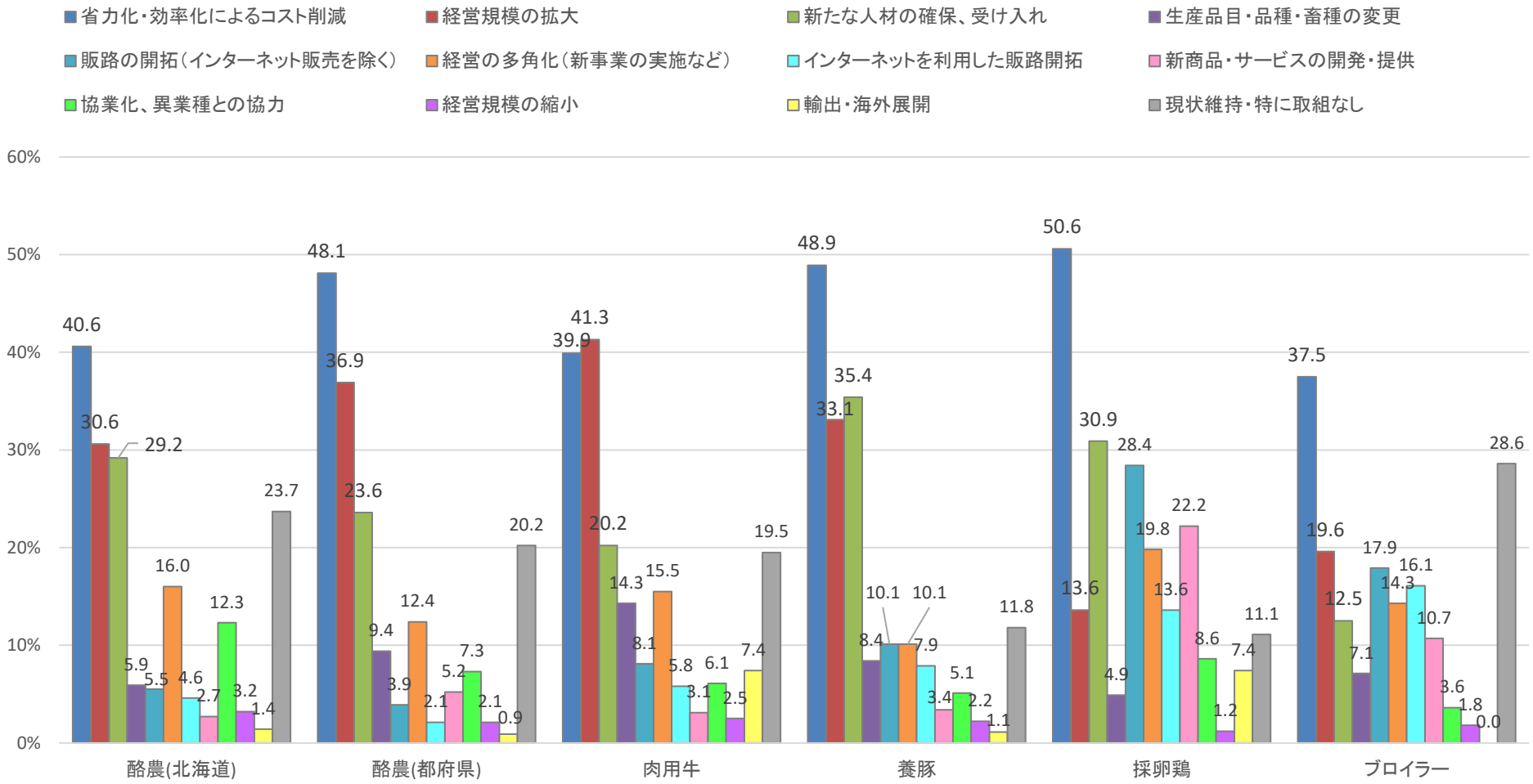
※「複数選択可」で集計したもの



Ⅲ-3. 「これから実施したい」具体的な取組みについて(業種別・畜産)

・業種別(畜産)では、酪農、養豚、採卵鶏、ブロイラーで「省力化・効率化によるコスト削減」、肉用牛では「経営規模の拡大」とする割合が最も高くなった。

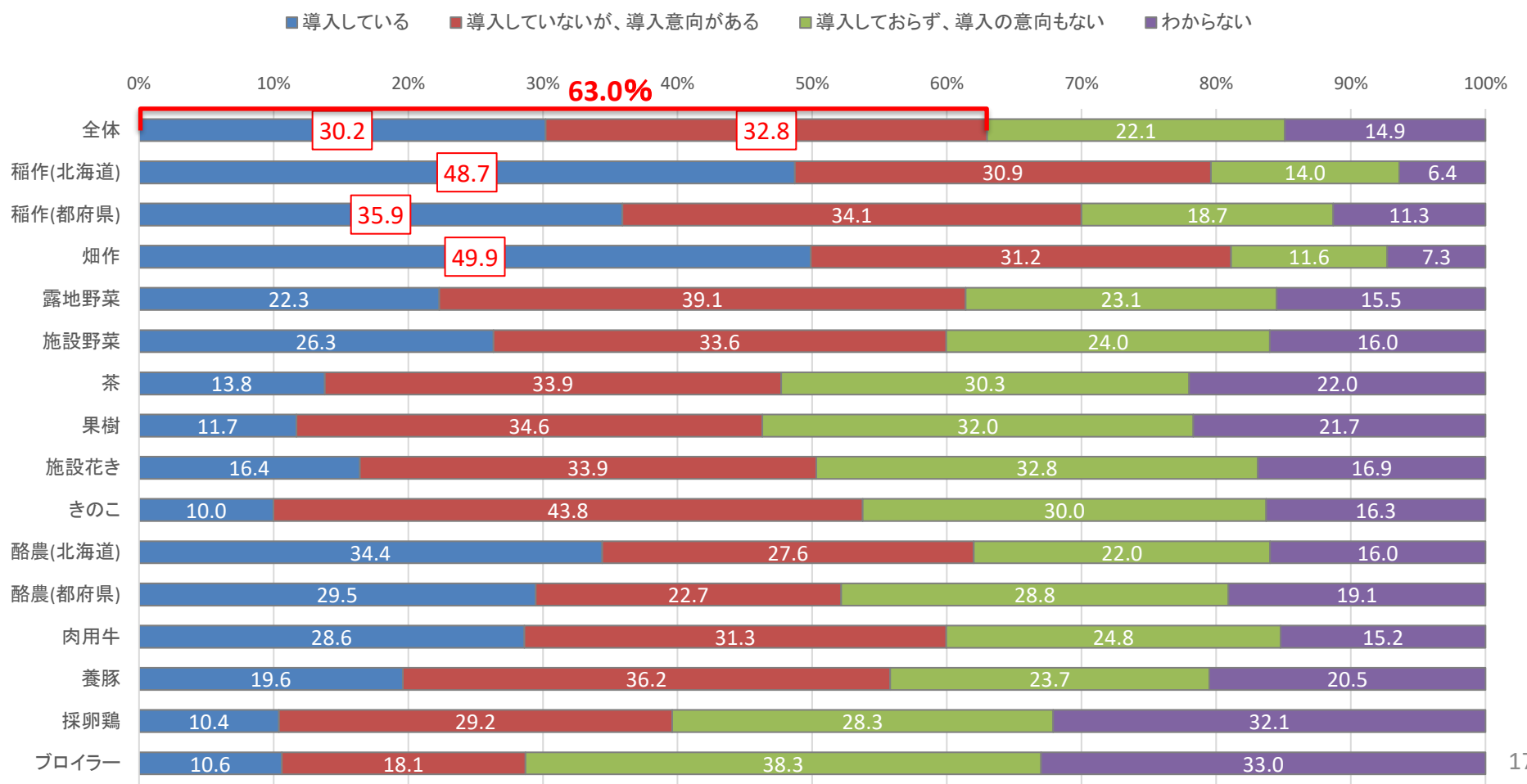
※「複数選択可」で集計したもの



IV. 「農業のデジタル化、スマート農業」について

IV-1. 「農業のデジタル化、スマート農業」の導入状況について

- ・「導入している」(30.2%)と「導入していないが、導入意向がある」(32.8%)を合わせた割合は、63.0%と半数超になった。
- ・業種別では稲作(北海道)、畑作の土地利用型農業で「導入している」とする割合が他業種に比べ高くなった。
- ・ブロイラーは「導入しておらず、導入の意向もない」とする割合が他業種に比べ高くなった。



IV-2. 「農業のデジタル化、スマート農業」の導入で期待する効果について

- ・「農業のデジタル化、スマート農業」の導入において最も期待する効果(第1希望)は、「農作業の省力化」(67.1%)が最も高くなった。
- ・第1希望から第3希望までの積み上げも「農作業の省力化」(77.1%)が最も高く、次いで「農作業の軽労化」(66.9%)、「品質・収量の向上」(43.9%)となった。

